

第20回 南砺の地域包括医療・ケアを守り育てる会を終えて



守り育てる会 山城会長

第 20 回南砺の地域包括医療・ケアを守り育てる会を終えて

南砺の地域包括医療・ケアを守り育てる会
会長 山城清二（富山大学附属病院総合診療部）

平成 28 年 2 月 13 日（土）に第 20 回南砺の地域包括医療・ケアを守り育てる会を開催いたしました。この記念すべき回には、南砺市の田中幹夫市長に、「南砺市の地域包括医療・ケアについて」というテーマで講演していただきました。

以下、第 I 部の講演の要旨をまとめてみました。

- ・田中市長の決意：私の仕事は何？
「全ての人が笑顔で暮らせる幸せなまち南砺」をみんなで創ること、そして、何があっても、何がおこっても、それを持続できるまちを！
- ・利賀の思い：父親の病気と介護、祖祖母の看取り、親戚・ご近所の気配り。利賀の豊かな自然に囲まれて、そして地域の方々に見守られて育った。地域・親戚・ご近所に感謝。
- ・インクルージョン構想：初めは社会・福祉の分野で使われ、障がいのある子供たちが、教育や社会に参加していくことを目的とした取り組みをさす言葉。最近では、取り組みの範囲が広がり、高齢者、犯罪前歴者など、誰もが参加しやすい社会をつくる。

その他

- ・南砺市エコビレッジ構想
- ・私達は豊かになったが、地域は貧しくなった。
- ・心の豊かさと物の豊かさ
- ・町は大きなホスピタル
- ・自利利他：自利とは利他をいう
- ・ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）

田中市長の現在の思い、そして利賀で育ち、父親の病気と自分達家族を見守る地域の温かさ、そして南砺市の将来構想を語っていただきました。過去の物語が現在、そして将来へつながるナラティブが身近にあることを強く感じ、大変感動した講演でした。今回、私は田中市長の思いに応えられるように取り組んでいく覚悟が強くなりました。



南砺市長 田中 幹夫



第II部 活動報告

各グループの活動報告です。

1.なんと住民マイスターの会の活動報告と今後の計画

今回4施設のご協力を頂いて実施した回想法では、

入所者さんは、①表情が豊かになった、②発語回数が増えた

施設職員さんは、①認知症高齢者の具体的な接し方がわかった、②世代間交流ができた、③入所者への敬意の深まりと社会性の発見、といった効果が見られた。

2.なんと住民マイスターの会五箇山グループの活動報告

栃もち作り：筑波大学生のコーリャク（合力）隊10名参加

毎年違う地域で行うことで、その地域の方々とはたな交流が生まれ楽しい活動ができた。

これからも五箇山に伝わる伝統文化や生活の知恵をお年寄りから学び、次の世代へ伝えていきたい。

3.地域包括ケアステーション実証開発プロジェクトの報告（重倉氏）

オランダの地域ケア（ビュートゾルフ）に学び、自助・互助を重視した統合ケアに取り組んだ。住み慣れた地域でその人らしい暮らしの継続を支える持続可能な地域ケア、生涯を通じた患者中心/住民本位の統合ケアを目指した「玉ねぎモデル」の実践である。

4.介護人材育成事業について（村井氏）

地域創生人材育成事業で全国から9都道府県が採択された。その一つが今回の事業である。

介護人材育成の意義：介護人材不足→初任者研修→定期巡回介護事業→まちづくり

5.生活支援モデル事業の紹介（前川氏）

平成27年度のモデル事業は6地区（井波、福野南部、南山見、西太美、大鋸屋、福野北部）を採択した。地域住民で話し合い、それぞれの地域で工夫し、全ての地区のモデル事業が成功した。

さて、私は、7年間取り組んできた「南砺市モデル」の継続のステップの中で、ステップ5の評価をまだしていませんでした。そこで、昨年末に第1期から第6期までの修了生へのアンケート調査を実施しました。それは、マイスター養成講座は修了者の意識と行動の変化をもたらしたという仮説を検証したものです（153名回答：回収率58.8%）。その結果、意識は修了者の6割が、行動は4割が変化した回答していました。驚いたことに行動の変化で、住民グループでは約5割の人が地域活動や医療に関する行動が変化した回答していました。なんとなく感じていたことが今回のアンケートの結果で明確となり、主催者として大変嬉しくて、今後の活動にもますます意欲が湧いてきました。皆様、「全ての人が笑顔で暮らせる幸せなまち南砺市」を目指して一緒に頑張りましょう。

地域包括ケアシステムモデル: Community-Campus Partnership for Health Care 2015.11.20現在

「南砺市モデル: 地域・大学パートナーシップモデル」

（能動的な）意識・思考改革

7年前の医療崩壊からスタート:

- ①医師不足、診療科の偏在、②病院の診療所化、③高齢化率、④医療者と住民の意識の乖離

→南砺市は、十分な医師確保が期待できないこの10年間、今後の医療崩壊を阻止するために**医療者と住民が連携し、ともに地域医療を守る努力が必要である。しかし、約2年間の在宅医療推進セミナーの講演活動のみでは行動は起こらなかった。**

（受動的な）セミナー

実践の姿: 7年間の状況

「みんながイキイキ」

7年間: 人材育成の継続
5年計画で200名以上のマイスターを養成した。
介護職と連携がもっとも成功させた。

7年間のまとめ:

- ①地域医療再生マイスター養成講座(第1-7期): 310名のマイスターが誕生
- ②南砺の地域医療を守り育てる会: 第1回-第21回: 年3回のペースで開催
- ③各グループの取り組み: 毎回発表し、継続的な取り組みとなっている
- ④行政・住民・医療者の連携: 行政の力、南砺市全体への広がりが
- ⑤ステップ6: 取り組みの評価: 成果がでているか、評価基準

地域包括ケアシステムの構築へ

（能動的な）改革の輪

①地域医療再生マイスター養成講座 (第1-7期): 310名のマイスターが誕生

②南砺の地域医療を守り育てる会
第1回-第21回: 年3回のペースで開催

③各グループの取り組み (能動的な) 行動改革

1) 地域で医師養成:
家庭医養成プログラム
(富山大学総合診療部・南砺市民病院連携)

2) 地域で訪問看護・リハ養成:
ナースプラクティショナー的ナース養成講座

3) なんと住民マイスターの会(住民グループ)
思い出がド養成講座

4) 五箇山グループの取り組み(住民グループ)
栃もち作り講座

5) 認知症ケアの取り組み(地域包括ケアセンター)

6) 包括医療・ケアWGの取り組み(行政)

7) その他

田中南砺市長

北日本新聞 2016/02/14

支え合い広げよう

地域医療・福祉将来像探る

南砺市の地域医療や 町事業に移行されるの途
に、市内6地区を全アル地区
に守り育てる会が目的、同
市で新設された「福野のア
ミューブル」で開かれ、お年
寄りの生活支援モデル事業
の紹介を通じ、住民同士の支
え合いの輪を拡大と呼び
掛けた。

この事業は、介護保険制度
改定に伴い、本格的な介護
が必要になる前の「要介護1」
の段階から、二重山附属院
総合診療部が中心となり、
「支え合い広げよう」を
テーマに、地域医療の
継続を促す。この事業は、
介護保険制度改定に伴い、
本格的な介護が必要になる
前の「要介護1」の段階から、
二重山附属院総合診療部が
中心となり、「支え合い広げ
よう」をテーマに、地域医療
の継続を促す。

「守り育てる会」
社会福祉協議会・自治振興会
に任せずに、佳良森
に任せずに、佳良森
に任せずに、佳良森
に任せずに、佳良森

「支え合い広げよう」
社会福祉協議会・自治振興会
に任せずに、佳良森
に任せずに、佳良森
に任せずに、佳良森
に任せずに、佳良森

「支え合い広げよう」
社会福祉協議会・自治振興会
に任せずに、佳良森
に任せずに、佳良森
に任せずに、佳良森
に任せずに、佳良森